

令和 7 年度総会を 6 月 16 日に開催しました

市内催事会場手配が厳しい中、前年に開業したアマンダンアイルで 44 名参加者があり開催しました。庭から国内有数の清流荒川の流れと春には満開の花を見てみたい施設です。

国歌「La Marseillaise」「君が代」の演奏が流れた後、司会者より出席会員の方々に前年度中に逝去された前理事長 瀬谷俊雄様、前専務理事 石川一十三様に対する黙

とうを捧げること発言あり、お二人のレジオン・ドヌール勲章シュヴァリエ受章も称え唄びました。

総会冒頭、太田英晴理事長から「折からの米価高騰状況で、小泉進次郎農相がコメの生産現場視察で昨日福島県内を巡り『二本松市内の西谷棚田』も訪れ、酒米も含む関係者として意見を交わす機会がありました。」の挨拶がありました。経営する大七酒造は酒米になる苗の田植えを毎年しており、コメの生産量増に努めている蔵元でもあります。

事務局から、本日出席会員 89 名（内委任状出席 57 名）で総会員 104 名の過半数が出席し、出席者の過半数を有する決議があれば有効の説明があり議事に移りました。

第 1 号議案 令和 6 年度事業報告と収支決算について説明後、本田久美子監事からその内容と経理は適切に処理されているものと認められる報告がありました。

第 2 号議案 令和 7 年度事業計画と収支予算について説明後、第 1 号、第 2 号議案とも、原案通り可決されました。

審議が終了してピアノコンサートになりました。

演奏者 村木洋子さんによる

1. 子犬のワルツ（ショパン）
2. 愛の夢（リスト）
3. アラベスク（ドビュッシー）
4. 即興曲（ブーランク）
4. Ju tu veux あなたが大好き（サティ）

が披露されました。演奏曲の合間に、村木さんより各曲のコメントをしていただきました。演奏の途中飛び入りダンスを、ピアノの脇で軽やかに楽しくタップを踏まれたのは田中正人仙台日仏協会会長様です。会場の雰囲気もなごみ、皆さんの笑顔が見られました。



荒川の桜堤を望む会場で総会出席会員



村木洋子さんのピアノ演奏に聴き入る

この後、懇親会に移り、渡邊博美副理事長の挨拶がありました「大阪・関西万博に行き参りました。東北絆まつりパレードで 6 県の夏祭りが披露され、『福島の大わらじ』も会場を練り歩きましたが他県の祭りに引けをとらぬ迫力で観衆の反応が良かったです。」

この後、公益財団法人福島県国際交流協会理事長小沢喜仁様から来賓ご挨拶をいただきました。来賓ご紹介は、仙台日仏協会会長 田中正人様、アリアンス・フランセーズ仙台院長 パスカル・マルタン様、同福島会話教室講師 スタニスラス・ブリッド様です。恒例の会合初めてご出席、佐藤稔理事（東邦銀行頭取）、料理教室を受講されている野村良子会員、新妻孝子会員の紹介も致しました。

祝電の披露後、乾杯ご発声は、田中正人様にお願いして皆様には、懇親の時間を過ごしていただきました。前菜提供後、中津みづか女性料理長から料理説明があり、会場暗くしてガラス越し調理場の炎を着席会員にサプライズの演出もありました。

宴もたけなわの「中締め」を野崎広一郎副理事長にお願いして、一本締めで最後も盛り上がりしました。今年度も協会活動へのご支援ご協力を宜しくお願い申し上げます。

私のフランス語日記 *Mon journal en français*

Je trouve très intéressante « Je veux mourir seule », la série télévisée du samedi émise par NHK qui a commencé en juin de cette année. Il s'agit d'une dramatisation du manga gag de Kaoru Curryzawa, avec Haruka Ayase dans le rôle principal. C'est une intrigue est comme ça : L'héroïne de 38 ans qui se réjouissait d'une vie de célibataire, elle a été amenée à faire face à la préparation pour sa propre fin de vie à l'occasion de la mort solitaire de sa tante qu'elle désirait depuis l'enfance. Cette série attire l'attention du public, comme en témoigne le fait que le nombre de visionnements de cette émission sur NHK Plus a battu le record (à l'exclusion des dramatiques matinales et des drames de la taïga).

Je n'aimais pas vraiment de drames basés sur des mangas, parce que j'avais l'impression qu'ils sont un peu exagérés, mais je peux naturellement accepter le contenu de l'histoire de ce programme, comme il n'y a rien de désagréable dans le jeu de Haruka Ayase.

Certes, c'est grâce à la bonté de la création dramatique que cette série est très populaire, mais sur tout, je pense que c'est plus important que beaucoup de gens, y compris la génération relativement jeune, acceptent le thème de la préparation pour sa fin de vie comme un sujet familier pour soi-même et sympathisent avec lui.

On dit que le nombre annuel de décès solitaire au Japon dépasse 70,000. Le pourcentage de ménages d'une personne représente 38% selon le recensement de 2020. C'est influencé par le vieillissement de la société et aussi par la tendance de la jeune génération qui ne veut pas se marier. On dit que telle condition continuera et que le pourcentage de ménages d'une personne sera 44% en 2050.

Face à cette situation, il apparaît le mouvement qui prétend la renaissance de la famille traditionnelle et propose diverses mesures de soutien à élever des enfants. L'AfD (Alternative für Deutschland), qui a remporté la 2^{ème} place aux élections législatives allemandes de février dernier, attire l'attention pour sa position d'exclusion des immigrés, mais elle accorde de l'importance également à telle politique pour soutenir la famille. Il semble que l'opposition de l'administration Trump à la DEI, c'est basée sur le même idée.

Il semble que des mouvements similaires ont récemment émergé aussi au Japon, et je les trouve très étouffants. Sur NHK aussi se remarquaient des programmes, tels que « Nodojiman » ou « Kôhaku-utagassen » qui insistaient sur les liens familiaux, mais elle a adopté enfin le mode de vie de vivre seul avec la série, « Je veux mourir seule ». Je le trouve désirable, parce que ça correspond à la situation réelle de la société. La réplique de l'héroïne, « Ce n'est pas que je ne veux pas mourir seule. Je veux vivre seule et mourir correctement par moi-même. », c'est très émouvante.

C'est ainsi que ma femme et moi venons de commencer à réfléchir sur la préparation pour notre propre fin de vie. un élève du cours de conversation en français :

Chizuo Hayashi

今年6月から始まったNHKの土曜ドラマ「ひとりでしにたい」がとても面白い。綾瀬はるかを主演に迎え、カレー沢薫のギャグ漫画をドラマ化したもの。独身生活を謳歌していた 38 歳の主人公が、子どもの頃からあこがれていた伯母の孤独死をきっかけにして自らの終活に向き合うようになるという話である。NHK プラスでのこの番組の視聴数が歴代最高記録を更新した(朝ドラ、大河ドラマを除く)ことから分かる通り、世間の注目を集めている。

私は、これまでマンガを原作とするドラマは少し大げさに感じられてあまり好きではなかったが、この番組では綾瀬はるかの演技に嫌味がなく、自然に物語の内容を受け入れることができる。

この番組の人気の理由には確かにこうしたドラマ作りの良さもあるであろうが、やはり何よりも比較的若い世代を含む多くの人が終活というテーマを自分にとって身近な問題として受け止め、共感しているという点がより重要であろう。

日本の年間孤独死は7万人を超えているそうだ。一人暮らし世帯の割合は 2020 年の国勢調査で全体の 38%となっている。そこには社会の高齢化のほか、若い世代の未婚化も影響している。こうした状況は今後も続き、2050 年には単身世帯が 44%となる見込みだという。

こうした状況に対して、伝統的家族の復活を掲げ、その観点から各種の子育て支援策を提起する動きも出てきている。今年2月のドイツの総選挙で第二位の議席を獲得した AfD は、その移民排除の姿勢に注目が集まっているが、実はこうした家族支援策も重視している。トランプ政権がDEIに反対するのも同じ流れであろう。



モーニングKC
「ひとりでしにたい」(第1話)
(カレー沢薫/ドネリー美咲)より



日本でも最近、同様の動きが生まれてきているように思え、私はこうした動きを非常に息苦しく感じる。NHKでも「のど自慢」や「紅白歌合戦」など、妙に家族の絆を強調する番組が目立っていたが、「ひとりでしにたい」でようやく一人で生きるという生活スタイルを取り上げた。これは社会の実態に合った番組づくりという点で喜ばしいことである。主人公が語る「私は一人で死にたくないわけじゃない、一人で生きて、ひとりできちんと死にたいんだ」という思いはとても胸を打つものだ。

こうして私も夫婦で終活について考え始めたところである。

こうして私も夫婦で終活について考え始めたところである。

フランス語会話教室受講生 林 千鶴雄

現在のパリ、フランス事情

パリ在住27年になる、シャネル社の時計技術指導者で活躍中の國分文博さんに、最近のフランスの学校制度やパリ最新事情を伺いました。

日本では新年度に入りました、仏国の義務教育、高等教育、専門学校、エリート養成大学など日本との違い、就学年数を教えて下さい。

「フランスでは2019年の秋から3歳からの幼稚園も義務教育に加わりました。3歳になる年の9月からが義務教育の始まりとなります。年少クラスから3年間は幼稚園教育となります。それと同時に、以前16歳までであったものが18歳までの15年間となりました(ただし、16～18歳は学校以外、見習い訓練等での義務教育も認められる)。エリート養成大学というのはフランスではグランゼコールという高等教育機関が担っております。グランゼコールはバカロレア取得後一部のリセ(高校)にある準備学級(Classes préparatoires)と呼ばれる部門で2、3年更に勉強することで選考対象として生徒候補となることが出来ますが、グランゼコールは通常学費が非常に高価な為、基本的に社会的に高い地位に属する家庭の子供たちが行くことになっており、このことを批判的に見る目があるのもフランス的で面白い点であると思います。権力に繋がるシステムですので単なる優秀さによる選別とは割り切れぬ部分が大きいため少し影のある制度であるといえるかもしれません。」

日本から短期留学大学生、料理修業調理師の渡仏の話を耳にしますが、現状はどうですか。

「日本からの留学生は短期の者がやはり多いのでしょうか、以前と比べ日本からの留学生の数が減っているのか全体的にあまり目に留まらないようになっております。しかし調理師に関しては日本人の活躍が目覚ましいです。パリでも有名な日本人シェフやパティシエがとても多く活躍されております。ミシュランの星付きシェフにも日本の方が何人かおられるようです。フランスでは日本人の調理師は常に安定して良い仕事をするということで大変重宝されております。やはり日本人にはめめめしいところがあるのでしょうか、いろいろな分野で活躍されている同邦諸君達がいらっしゃいますが、特に技術職や職人的なお仕事で活躍されている方々が目立ちます。」

國分さんご自身も20才で単身渡仏され独学でフランス語を学ばれ、高度な時計技術指導者の資格を取得されましたが、若い世代に日本での仏語習得のアドバイスがありましたら。

「僕は大学ではドイツ語を取っておりました。フランス語は一通りの挨拶程度を出発前に覚えた程度でほとんどは此方に来てから学びました。まずは滞在許可証の取得のためアリアンス・フランセーズに在籍しフランス語の基礎を学びましたが、当初は英語を混ぜて周囲とのコミュニケーションを取っておりました。

後は現在の仏人の妻と出会いまして嫌でも覚えざるを得ない環境に自らを置きましたので一年程度で何とか生活に困らない程度の仏語を身に付けることができました。私にできるアドバイスは背水の陣を自ら敷いて他の逃げ道を徹底的につぶす、ということぐらいでしょうか。人は誰でも他に道がないとなると意外と何でもできるようになるものです。文法などは後からで構いません。まず話せないと話になりません。まずは人々と話すことです。」

トランプ関税施策で、マクロン大統領以下政府は対策に変のようですが、パリ市民の反応はいかがですか。ムードだけでも結構です。

「パリでもトランプ大統領の政策を批判する人が大半でしょうが大抵の方々はあまり深く考えてはいないでしょう、マスコミの言うことをオウム返しにトランプ批判しているだけという印象を受けます。政治に対する理解はテレビの報道の内容をそのまま自分の意見としている人がほとんどです。それよりもマクロン大統領の人気のなさが日に日に強く目につくようになりました。どこに行ってもブーイングが飛ぶので、今年のパリ祭のシャンゼリゼ通りのパレードの際には一般人の参観が警察によって阻止されるという異例の状況の中、一部の同調者や関係者、上級階級の者等やエキストラばかりが参観できていたという可笑しい事態となっております。労働者階級のフランス人は物価高騰、治安悪化、失業、就職困難等であえいでいる者が多く、パリはまだましとはいえ、2017年のマクロン大統領就任以降の生活水準の低下は一部の者たちを除けば誰も経験していることですのでやむを得ない事ですが、中流以下の階級に属する市民の政権にたいする怒り、批判はかなり深刻なレベルに達しているのは日々の生活でもヒシヒシと感じることが出来ます。」

観光面では、相変わらず有名なスポットの入込客数は順調なのでしょうか。火災の修復工事が済んだノートルダム大聖堂はどんな状況でしょうか。

「観光面では今年は去年よりは人出が多いようです。ノートルダム寺院は修復工事をほぼ終えて去年の12月8日より一般に公開されています。今年の夏は流石に多くの人が訪れ、常に長蛇の列が出来ているようです。まだ色々な作業が残っているようですが特に話題になっているのはあの荘厳な Viollet-le-Duc による19世紀のステンドグラスがマクロン大統領の意向で26年までに宗教色のないコンテンポラリーなものに取り換えられるということです。が、それは識者や一般人の大々的な反対にも拘らず推し進めるということでここでも残念な権力の在り方が目についております。」

日本人はスーパーやコンビニで生活用品を購入しています
が、パリ市民はどんな店や 場所で日用品を購入しているか、
フランスパンの値上げはどうか。

「パリ市民は一般的にマルシェと呼ばれる定期市場で買い物を
するイメージですが、それはある程度裕福な人達でして大半の
人々はスーパーマーケットで買い物をしています。特に LIDL
や ALDI などのドイツ系のディスカウントスーパーは常に人で溢
れているようです。フランスパンに関しますとユーロ導入後、値
段はほぼ 2 倍になっております。2000 年当時バゲット一本 4 フ
ランぐらいでしたから 0.6 ユーロ、現在パリでは 1.1 か 1.2 ユー
ロですね。1999 年の法定最低賃金がユーロ換算で 1,049.11、現在 2025 年の法定最低賃金が 1,801.80 ですの
で体感では 2 割位消費力をなくしたような感覚です。家賃、交
通費、郵便料など生活にかかる費用のほとんどがユーロ以前の
1999 年—2000 年当時の倍となっているため以前ほどの
楽観的な生活の余裕はあまり感じられなくなりました。」

ご職業柄、高級ブランド品の最新事情 全体売上げやトップ
ブランドのランキング変化などありましたら。

「フランスの大手高級ブランドたちは変わらず売り上げの成長を
続けております。2025 年は全体で 1520 億円程度の収入が見
込まれており前年比 +2 パーセント程度の緩やかな成長が予
想されております。ランキングは今年に入って少し動きました。
ルイヴィトンはいつも安定して 1 番ですが、シャネルは 2 番目の
地位をヘルメスに譲る結果となっております。やはりカール・ラ
ガーフェルドの去ったのちのカリスマの不在が成長を妨げてい
る感がぬぐえません。4 位はロレアルとなっております。」

今後、日本からフランス観光で旅行する方々へ、旅行中注
意する事、足を運ぶべき見処を、パリ市民から教えて下さい。

「フランスへの旅行の際注意していただきたいのはやはり安全
面ですね。治安は日々悪化しているようなのでお気を付け頂
きたいと思います。以前は問題の無かった地方都市や農村、
いわゆる田舎といわれる地域でも最近では色々な事件が起き
るようになっております。何となく騒がしい人々や場所を避け
る、スリ、置き引き、強盗などは田舎に行っても起こり得ると心
得てお気を付けいただければと思います。

パリの見どころはパリジャンのいくようなレストランやバー、カ
フェ、ナイトクラブやシャンソニエ、劇場など、普通の観光ルート
ではない所も見てみるのも面白いかと思います。パリならではの
楽しみ方が有りますのでそれを味わって頂けたら幸いです。
フランス全体でいえばブルターニュやノルマンディー地方が個
人的にはお勧めです。古く美しい街並みや自然、美味しい海の
幸を存分にお楽しみいただけます。」



一部工事の続くノートルダム寺院



列をなして見学を待つ旅行者達

十代目太田七右衛門襲名ご挨拶

謹啓 時下ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます
平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます

令和三年に福島日仏協合理事長に就任して以来微力ながら協会運営
活動に取り組んでおります

さて家業である大七酒造は代々の当主が七右衛門を襲名しており私も
父の死去から三年が経過したのを機に十代目太田七右衛門を襲名し
決意を新たに社業に取り組み 福島日仏協会他関係する団体活動にも
貢献し努力いたす所存です

何卒従来にも増してのご指導・鞭撻を賜りたくお願い申し上げます
謹白

令和七年 七月吉日

一般社団法人福島日仏協会 理事長
大七酒造株式会社 代表取締役社長

十代目
太田七右衛門

理事長が、7 月 7 日付で太田英晴から太田七右衛門襲名
で「名」の変更をされました。フランス大使館、仙台日仏協
会、他府県日仏協会、福島県・福島市国際交流協会等関
係先に送付した「挨拶状」です。